輝く学年団を訪ねて

専門科の垣根を超えた横のつながりを強化し、生徒を見守る

岡山県立岡山工業高校　3学年団

同校では、専門科内での教師の結びつきが強い一方で、科を超えた横のつながりは強固なものではなかった。科の枠を超えて生徒の情報を共有し、生徒の希望進路実現をより手厚く支援するために、学年主任となった江口先生は、学年会議の定期的な開催などに着手した。

直面した課題

◎専門科内の縦のつながりに比べて、学年団の横のつながりが弱かったため、1人の生徒に様々な学科の教師が多様にかかわり、指導することが難しかった。

◎専門科内での教師と生徒の強い結びつきは尊重しながらも、進路に対して幅広く関心を持つ生徒の目標を実現するためには、複数の教師による多角的視点からの支援が必要だった。

学校概要

「誠実勤勉」の校訓の下、創立以来120年にわたって、工業にかかわる高度な知識と技術・技能を習得した3万人超の人材を送り出す伝統校。将来のスペシャリストとしての専門分野の基礎・基本を学ぶとともに、STEAM教育を柱に、問題解決に向けた柔軟な発想力と創造的な思考力を育成する。ボクシング部、水泳部、陸上競技部、バスケットボール部、ラグビー部、自転車競技部など、多くの部活動が全国大会への出場経験を持つ。

設立　1901（明治34）年
形態　全日制／機械科、土木科、化学工学科、デザイン科、建築科、情報技術科、電気科／共学
生徒数　1学年320人
2021年度進路実績（現役のみ）　4年制大は、名古屋工業大、大阪教育大、岡山大、愛媛大、高知大、岡山県立大、日本大などに58人が合格。短大・高専・専門学校進学66人。就職192人。

学年内の横のつながりを強めて、生徒の志望実現を厚く支援したい

専門高校、中でも、多くの学科が設置されている工業高校や科学技術高校では、教師たちは1日のほとんどの時間を専門科ごとの職員室か実習室で過ごすといったケースが少なくない。専門科、さらには担当教科を超えて教師が集うことは、学年内であってもまれだ。そして、生徒たちも自分が所属する専門科の教師とのつながりの強さから、「□□科の生徒」という自覚を持つ。生徒同士も、科が異なれば、同学年であってもかかわりは少ないというのが実情だ。

専門科内で教師、生徒がまさに「師弟」として深い関係性を築き、専門分野を学んでいく専門高校のよさを尊重した上で、「1人の生徒にもっといろいろな専門科、教科の教師がかかわる場面をつくりたいと思った」と、江口雅也先生は、岡山県立岡山工業高校の1学年主任となった2019年4月の自身の思いを振り返る。

「近年、技術革新や新しい価値創出のため、文理の枠組みを超えて学ぶSTEAM教育の重要性が、高校現場でも話題に上るようになりました。これからの工業高校の生徒にも、所属する専門科の知識・技能を土台にしながら、より幅広い視点で事象を捉える力、多様な価値観を持つ他者と協働する力が求められると思います。また、本校には、国公立大学を始め4年制大学に進学を希望する生徒が多く、専門科の教師と進学指導の経験がある教師の連携も求められます。時代に合わせた生徒の学びの実現や、進路指導のさらなる充実のために、専門科を超えて様々な教師が生徒にかかわっていくよう、学年団という横のつながりを強化したいと考えました」

工業高校卒業者であり、19年度に初任で同校に赴任し、江口学年団の一員となった松本匠史（たくみ）先生は、江口先生の考えに賛同する。

「工業高校では、所属する専門科の特色を生かして就職する生徒が多いので、当初は科を超えた連携の必要性を感じていませんでした。しかし、本校の生徒と話をしてみると、進路に対して幅広く関心を持っていることが分かりました。中には、建築科に籍を置いているけれども、大学ではデザイン学を学びたいという生徒もいました。そうした生徒の志望に応えるためには、科を超えて各教師が連携して指導することが必要だと感じました。本校は大学進学希望者も多いので、専門科の教師とともに、受験指導の経験が豊富な教師が支援することで、希望進路実現の可能性がさらに高まるのではないかと思いました」

学年主任に聞く！5つのQ&A

Q どのようなチームを目指しましたか？

A 専門科を軸にしながらも、学年として生徒指導や進路指導でまとまったチームです。

Q リーダーとして心がけていることは？

A 先生方が安心して生徒にかかわることができるように、全体を見て、準備をしたり、環境を整えたりすることです。できていないこともありますが……。

Q 学年団としての「成功」は？

A ありきたりですが、3年間を振り返った時、この学年団でよかったと先生方が思ってくださったら、自分としても満足です。

Q 学年主任として自覚する長所は何ですか？

A 常に前向きに、新しいことにもチャレンジする気持ちを大切にしているところでしょうか。あとは、和やかな雰囲気をつくるところだと思います。

Q 学年主任として自覚する短所は何ですか？

A 学年の取り組みのよいところや改善点などを、学校全体で共有できればと思うのですが、なかなかそこまでの連携ができていないところです。

定期的な学年会議と細やかな生徒調査で情報を共有

江口先生が学年主任としてまず着手したのは、学年会議の定期的な開催だ。1か月に1度は学年団に所属する教師が集まり、生徒の様子を共有する。そして、赴任したばかりの教師や工業高校に初めて勤務する教師に、校務に関して困っていることなどがないかを聞く。学年会議の実施は工業高校では1年に1回程度のことも珍しくない中、19年度の同学年団では約10回の学年会議が開かれたことに、学年団の1人であり、他校で学年主任を務めた経験がある杉山勝彦先生は驚いたという。

「学校行事が多く、会議が開催しにくい時期は職員朝礼の後などに、その時期の進路指導の要点をまとめた資料を配布するなど、学年団としての歩みを1つにすることを江口先生は大切にしていました。ただ、自分の考えを押しつけるのではなく、学年団のメンバーの意見を聞くことは常に心がけていて、例えば生徒に配る学年通信は、必ずメンバー全員の確認の後に発行していました」

19年度に初めて工業高校に赴任して、江口先生が率いる学年団の一員となった田中温美（あつみ）先生は、定期的な学年会議は工業高校の生徒の特性を理解する場としても役立ったと振り返る。

「それぞれの専門科にはどのような生徒がいて、今後それぞれの生徒にどのような指導が必要になりそうかといった点を確認することができました。そうして生徒理解を深めることによって、学年団が一体となった指導の必要性も、私たちは1学年の段階から意識することができました。また、江口先生は、『こんな声かけをすると生徒はこんな反応だった』などと、日々の指導の成功談や反省点をよく話してくれたので、学年団の中での指導のノウハウの共有が進み、全体の指導の底上げにつながったと思います」

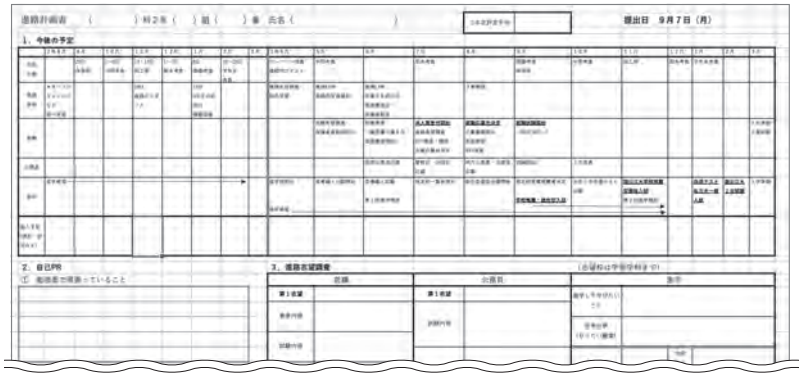
図1 学年団で共有した面談での情報

四年制大学進学希望者			第1志望			第2志望				
科	組	氏名	大学	学部	学科	大学	学部	学科	性格や悩みなど	自己PR など
			富山大	工	知能情報工	富山大	工	機械工	性格は未定。進学先はいろいろ学科は未定。知識学園はいろいろ富山大学高い。私大は未定。	富山口を機械の科を学ぶために学ぶ。私立はいろいろ。
			未定						機械系の大学がいい。これからの時代を考えてロボットなどが発展しない。今は大学名まで分からないが、機械工学大学も及び大学も向いている。	機械大学機械大を紹介した。あとは、地元の高山技術大を紹介した。
			広島工大	工	環境土木	日本大	生産工	土木工	将来は環境監管、リーダーを工環大 土木で勉強しているためこの大学を志望している。広島工大は学ぶ力が環境よりの学科だった。	
			日本大	理工		広島工大	環境工		将来は未定。日本大学が合いと思ったので、第1志望にしている。教師や相談のような仕事が適切か。（今考えの）	将来やりたいことをしっかり考えて、それによって大学を決め考えて欲。
			金沢工大	工	建築土木				キャンプキャンプはなりたい。将来学校で行きたい。将来考えている。（働き働いて学費を稼ぐ）土木はあまりいきたい場所（どこかはわからないけど）。	将来やりたいことをしっかり考えて、それによって大学を決めたい。
			未定						工学部の化学系のが不安。富山工大学を目指せるように頑張ったい。	
			高山大	経済	経済	高山大	工	化学生命	高山大に進学したい。いろいろ勉強する中で、金融関係などの経済系の知識を勉強学ぶ。（今はこの方が良い）。経営などの検定に挑戦するために勉強中。	本校から経済学部への進学は難しい。自分で勉強しないといけないことが増えるので、それでもがんばりたいかぎり考えたこと。日本語に進んでおりいろいろに。勉強は頑張ってください。
			大阪市立大	工	化学バイオ	岡山大	農学部	農学工	化学に関する中に興味があり、幅広く学ぶ。理科大学学ぶ。工学科大学。岡山大学（工）を目ざしたい。	大阪市立は入学試験の難しさ。色々大学ないけれど。私大が考えて考えておけるように。
			島根大	理工		島根大	生物生産		将来考えている。工場で働くのは好きだけどいろいろ分からない。研究学部などに行きたい。人と関わる仕事も考えている。自分で何がやりたいか分からなくて悩んでいる。	本校は経済学部の進学は難しい。将来やりたいことをもっと考えて考えて。さらに学部に進んでも良いように。勉強は頑張ってください。好きなものがなるように。
			未定						情報系の大学に進みたい。	
			東京農大						勉強をしっかり頑張りたい。	
			神戸電工大		情報				お金がかかるので進学学部が決まっていない。	
			鹿屋体育大	芸術	デザイン芸術				将来決まっていないこと悩み。	

1学年主任時、江口先生は4年制大学を志望する生徒に面談を実施し、そこで得た情報を学年団のメンバーに共有した。それは、どの専門科に属する生徒なのかは関係なく、進路実現に向けて学年団全体として支援する機運を高めるためだった。

※学校資料をそのまま掲載。

図2 進路計画表



江口学年団で、2年生の夏季休業中の課題として生徒に作成を課した進路計画表。生徒、そして学年団の教師が、ともに高校生活後半を見通しながら、これから取り組むべきことを考えるためのツールとなった。

※学校資料をそのまま掲載。

江口学年団がスタートして数か月が経ったある日、進路担当だった田中先生は、江口先生から「4年制大学を志望する生徒に面談をしてもよいですか」と、申し出を受けたという。

「進路担当として1学年の生徒に進路希望調査を実施していましたが、普通科進学校での指導経験もある江口先生は、高い目標を持つ生徒には、早期から面談の機会を設けたいと考え、相談してくれたのです。そして、面談で得た生徒の情報は学年団全体に共有されたので（**図1**）、学年団のメンバーが『1人の生徒をみんなで育てるのだ』という意識を持つことにつながりました」（田中先生）

3学年主任
江口雅也 えぐち・まさなり
教職歴20年。同校に赴任して6年目。数学科。

杉山勝彦 すぎやま・かつひこ
教職歴29年。同校に赴任して2年目。1学年主任。地理歴史・公民科。

松本匠史 まつもと・たくみ
教職歴2年。同校に赴任して3年目。建築科。

徐々に広がっていく「横のつながり」を大切にする文化

学年団が2学年に持ち上がると、江口先生は、夏季休業中に「進路計画表」（**図2**）を作成することを生徒に課した。それは、2年生8月から卒業までの学校行事や進路イベントとともに、就職や進学に向けていつ、どのようなことに取り組むのかを見通し、現段階の志望先や自己PRをまとめるものだ。

「生徒の進路意識を早期に刺激し、現時点での志望を学年団で把握しようと考えました。志望先を一覧化したところ、同じ企業を複数の専門科の生徒が志望していることが分かりました。そこで、第1志望だけでなく、第2、第3志望も考えさせること、進路選択で大切にしたいことを生徒に意識させることなどの指導方針を、学年団のメンバーと共有し、3年生になるまでの進路観の深掘りへとつなげていきました」（江口先生）

昨年度まで江口先生と同じ学年団で活動し、今年度からは1学年主任となった杉山先生は、江口先生同様に毎月1回の学年会議開催を目指していると明かす。

「江口学年団での経験を通じて、学年団の横のつながりの大切さを改めて実感しました。各科の生徒の志向や特性を生かしながら、『総合的な探究の時間』や学校行事、さらには進路指導、生活指導など、専門科での学習以外の時間をよりよいものにしていくためには、横のつながりを私たちの学年でも強固にしていく必要があると考えています」

今年度、江口学年団は3学年となり、生徒は進路実現の時を迎える。横のつながりが生む大きな成果に注目したい。

学年団 輝きのポイント

- 生徒の幅広い希望進路を支援するため、科を超えた横のつながりを強化。定期的な学年会議で指導の目線合わせを図った
- 学年主任は、メンバーの意見を尊重して学年運営を行いつつ、率先して生徒情報を収集・共有した